

部長会議主旨

日時:令和7年9月18日(木)

午前9時00分～

場所:市役所4階 庁議室

1 市長の話

(1)災害対応について

例年10月末までは台風等の災害が起こるかわからないので、引き続き、最新の気象情報に注意して、いつでも対応できるように備えておいてください。

(2)令和6年度決算について

9月22日(月)に議会へ令和6年度決算の議案を上程する予定です。

新時代創造プランの中では厳しい状況と思われた令和6年度でしたが、税収の回復や地方一般財源の確保により、物価高騰を見込んだとしても、実質的な単年度収支が黒字となりました。

将来的には依然として厳しい状況が続くことが予測されますが、これまでのみなさんの協力のおかげで、財政の収支均衡をめざす段階から、財政の持続可能性を確保しながら、住民の幸せや暮らしを両立させるという新たなステージに進めたと感じています。

(3)政策の卵、実施計画について

政策の卵、実施計画を確認しました。全てを具体化することはできませんが、優先順位をつけていきながら、一つずつ具体化していきたいと思っています。

(4)決算成果報告書について

今回の決算成果報告書の作成においては、業務が輻輳する中で修正が生じ、職員に負担をおかけしてしまったと思っています。改めて修正に協力いただき、ありがとうございました。

その分、中身については、これまでの決算成果報告書に比べて内容が充実したものになったと自負しています。

一方で、振り返るべき点もありました。今回の決算成果報告書作成において反省すべき点として、市長レビューの進め方や時期、さらには評価のポイントをどこに置くかという点で、各部によって取り組み方に違いが生じていたと感じています。

毎年実施する業務のため、どうしても作業となりがちですが、この報告書の目的は「どこに課題があるのか」ということを突き詰め、その課題に対する評価を踏まえたうえで「次にどういう方向性を示していくのか」という議論を進めるために必要なものだと考えています。決算

成果報告書を作る意味を再度認識する必要があると改めて感じました。

そのため、来年度もう少し早い段階で、課題は何なのかということ突き詰めた議論をしていきたいと思っています。職員のみなさんが令和7年度の事業を実施するうえで、令和8年度の今頃、どういう決算の報告をするべきか、どういう課題を示すべきか、どういう方向性を見いだすべきかということイメージをしながら、来年度のレビューに臨むといった一連の流れをつくっていききたいと考えています。

また、事業はそれぞれの計画に紐づいているものが多くあると思います。審議会を設置して計画をつくったので、審議会とともにPDCAを回していくことが大切です。

目標値の議論をしたときに、計画で定められてるため、これ以上高い目標設定はできないという議論もありましたが、それはPDCAが回ってないということです。目標設定をして、1年後にそれを超える成果を出せたのであれば、チェックをした上で新たなプランを作っていくことがPDCAサイクルを回すという意味です。今年度それぞれの計画を回す中で、作業となってしまうことを気をつけていただきたいと思います。

来年度の市長レビューではもう少し大きい議論をすすめ、細かいところについては、部長を中心に現場で対応していくという形に変えていきたいと思っています。

(企画財政部長コメント)

決算成果報告書について、作成プロセスや記載内容について、これまでと違う形での作成を依頼したため戸惑いをかけましたが、対応していただき、ありがとうございました。

2 その他

(1) 民生児童委員への負担軽減について (福祉部)

【資料1】

- ア 9月議会で議員からの一般質問を受けて取り上げています。また、国としても同様の課題を認識しており、特に「証明事務が負担になっているのではないか」という観点から、その見直しを求めるような通知が出ています。
- イ 川西市の令和4、5年度の件数としては約200件ほどの証明依頼があり、平均すると1人の委員につき年間1件あるかどうかくらいの話ではあるが、1件につき複数回面談をするような必要がある場合もあると確認しています。
- ウ ただ、数量的な負担というよりは、把握が困難なことを証明することに不安を感じるという精神的な負担があると認識しています。
- エ 福祉部においても、各部が民生委員にどんな依頼をしているか完全には把握ができていないため全庁照会をする必要があると考えています。また今後については、民生委員へ証明を依頼する以外の方法もとれないか、各部で検討をしていただきたいと思います。

(2) 多面的評価について (総務部)

【資料なし】

- ア 多面的評価について昨日、全員の入力が終わりました。集計作業後、お知らせ予定です。部長級はご自身の部の課長級まで結果がフィードバックされます。
- イ 実施目的は、部下からの評価と自身の評価の差に気づきを得る機会にしてほしいという点です。本評価の結果は処遇には一切反映しません。
- ウ 懸念点としては、この事業を実施したことで課員との関係がマイナスに作用するようなことがないか心配してます。そのため、結果の確認後、評価の違いなどに関して、上司が部下とやりとりをするということは一切、控えるようお願いします。

(市長コメント)

この評価で大切にしているポイントは点数ではなくグラフの形とってください。管理職自身が思ってる形と部下が思っている形が違うということは、自分の得意なところと不得手なところが違うという意味です。

例えば、事業がうまく進んでいないという課題があったとして、課題が生じている原因が、決定力が足りていないのか、相談にのってもらえる環境になっているのかなど、部長がアドバイスをするためのツールになることを目的としています。成長のため、よりよく組織を回すためのツールということです。以前からお伝えしているとおり、この調査結果でボーナスや昇任に影響が出ることもなければ、希望する部署への異動が叶うということは一切ないので、その点を課長級にしっかり伝えてください。

(3) 9.18 実施、決算の記者レクについて (企画財政部)

【資料なし】

決算状況については、ガルーンに掲載している決算成果報告書の財政分析編でお知らせしていますが、記者レクの内容についてお知らせができていませんので、後日、解説もつけて共有しますので、よろしくお願いします。

***次回部長会議予定 令和7年10月15日(水) 午前9時00分～**